

棄てられた風景を

撮り続けてきた写真家

棄てられた道路の声を

汲み続けてきた探検家

広告

丸田祥三 × 平沼義之

# 道路の声が聞こえるか？

廃墟と道路、ふたりのカリスマが結びついた。いま、沿道の人々が道路に込めた思いが溢れ出る。

日本初！「使われなくなった道」の写真集、ついに完成！

# 廃道

棄てられし道



## 11月17日発売

左右 210mm × 天地 190mm  
カラー 96P + モノクロ 16P  
定価 1890 円  
発売：実業之日本社

## 道路が、こんなに饒舌だったなんて。

●明治初期。移動の自由を得た人々は自分たちのために、地方の首長は中央や周辺とのパイプ作りのために、一斉に道を造り始めた。それも、車輪を持つクルマが通れる道を ●立ちはだかる壁だった山に、初めて隧道という風穴が開いた時の人々の歓喜はいかばかりだったろうか。あるいはそれまで許されなかった大河への架橋を成し遂げた時も ●爾来百数十年、道路は改良が続けられ、よりまっすぐに、より緩やかになった。その陰で、旧道は打ち棄てられ、顧みられることもない ●誰が作ったとも伝わらぬ、棄てられし道。しかし、込められた思いは無数。いま、丸田・平沼両名によって、道路が口を開く。道路は無記銘だが、決して無言ではないのだ。

